

下地への密着性・耐久性アップ!

屋上防水遮熱塗料 専用シーラー

水性

保管上の注意

- ① 幼児の手が届かないところに保存し、子供が誤飲・誤食・いたずらをしないように注意して下さい。
- ② 直射日光や火気のある場所、-5℃以下になるところ、自動車内など温度が高くなる場所には置かないで下さい。
- ③ 残った塗料は、内ぶた・キャップをしっかりとめて保管し、できるだけ早く使い切して下さい。

救急処置

- 目に入った場合には、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合には、多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化のあるときは、医師の診察を受けて下さい。

●水生生物に有害

株式会社 **アサヒペン** 大阪市鶴見区鶴見4-1-12
http://www.asahipen.jp

お客様相談室 ☎06-6934-0300



キャップ PP
内ぶた PE
容器 PE

日本製
02-1710



ホワイト

下地への密着性・耐久性アップ!

屋上防水遮熱塗料

専用シーラー

水性

陸屋根、ベランダのコンクリート・モルタル
ゴムシート(EPDM)防水面などに

無鉛塗料
鉛・クロム化合物は
使用していません。

標準塗り面積(1回塗り)
7.5~9㎡ 4.5~5.5枚分

乾燥時間
夏期/30分~1時間
冬期/ 2~3時間

上塗り時間の目安
夏期/2時間以上
冬期/3時間以上

塗料用具は
水
で洗って下さい

うすめずしそのまま塗って下さい。

注意書きをよく読んでから使用して下さい

1.3L



ホワイト

下地への密着性・耐久性アップ!

屋上防水遮熱塗料

専用シーラー

水性

陸屋根、ベランダのコンクリート・モルタル
ゴムシート(EPDM)防水面などに

1.3L

注意書きをよく読んでから使用して下さい

遮熱塗料の
遮熱効果がさらにUP!

遮熱塗料の
遮熱効果がさらにUP!

※塩ビシート・アスファルト系防水面には適しません。

商品名 屋上防水遮熱塗料専用シーラー(水性)

品名 合成樹脂塗料(水系)

成分 合成樹脂(変性アクリル)、顔料、水

特長

- 上塗り塗料と下地との密着性と耐久性を向上させます。
- 上塗り塗料の吸い込みを防ぎ、優れたシール効果を発揮します。
- 水性ですから安全で、後始末も水でできるので取り扱いがとても簡単です。
- 水性屋上防水遮熱塗料と一緒に使用することで(上塗り塗料の)遮熱効果がアップします。

用途

水性屋上防水遮熱塗料専用下塗り剤
●陸屋根・ベランダのコンクリート、モルタル。
●ゴムシート(EPDM)防水面。
●ウレタン塗膜防水面(予め密着性の確認必要)。

塩ビシート、アスファルト系防水面には適しません。塩ビシート、アスファルト系防水面に水性屋上防水遮熱塗料を塗装する場合は、本品を使用せず直接塗って下さい。絶えず水がかかったり水につかる場所や、いつも湿っている場所には適しません。

塗装方法

- ① はがれかかった古い塗膜やサビは、皮スキ・ワイヤーブラシ・サンドペーパーなどを使用して充分に取り除きます。
 - 塗る面の汚れ・ホコリ・砂・コンクリートのアク・カビなどを取り、デッキブラシなどを使って充分に水洗いし、よく乾かします。
 - カビはカビトリ剤で、油分はペイントうすめ液で拭いてよく落とします。
- ② 塗料がついては困るところは、あらかじめマスキングテープなどでおおっておきます。
- ③ 右の下部処理の注意にしたがって下部処理を行います。
- ④ 使用するときは、よく振って容器の中の塗料をよく混ぜ、適量を口の広い器に移します。
 - うすめずにそのまま塗ります。
- ⑤ コーナーや塗りにくいところは先にすじかいバケで塗ります。広い面積の部分はローラーバケ・コテバケを使うと、速く、楽に塗ることが出来ます。
 - 残った塗料は、固くフタをして保管します。
 - マスキングテープは、塗装後すぐにはがします。

用具の手入れ方法

塗料が乾かないうちに、水か湯で洗って下さい。

取扱い上の注意

- ① 表示の用途以外に使用しないで下さい。
- ② 本品の塗装前後に降雨や高湿度が予想される日を選び、天気の良い日に、風通しをよくして塗って下さい。塗るとき及び塗った塗料が乾くまでの間も、5℃以下にならないような時間に塗って下さい。
- ③ 塗装前の降雨や水洗いの後には、2日以上、下地(コンクリート)を充分に乾燥させて下さい。また、塗装後上塗り塗料を塗るまでの間に結露したり雨が降った場合も、充分に乾燥させてから上塗り塗料を塗って下さい。水分の影響により、ふくれ・ハガシや塗膜が溶解する場合があります。
- ④ 目に入らないよう、皮膚に付着しないよう、また誤飲しないように注意して取り扱って下さい。
- ⑤ 塗料がついても支障がなしい服装で作業して下さい。
- ⑥ 陸屋根を塗る場合は、降りるところが最後になるように、順序を考えて塗って下さい。また、転落事故のないよう充分に注意して下さい。
- ⑦ 常に水の溜まる場所には適しません。シリコン系、フッ素系、その他の特殊防水処理をした面や、シーリング材・ウレタン塗膜防水面の一部には、塗料が付着しないことがあります。
- ⑧ あらかじめ目立たない部分で試し塗りをして、色・乾燥性・下地への影響・密着性などを確かめてから塗って下さい。
- ⑨ うすく塗りすぎると、うまく仕上がらない場合があります。
- ⑩ 吸い込みが激しい場合には、繰り返し塗って下さい。
- ⑪ 本品は下塗り専用塗料ですので、必ず水性屋上防水遮熱塗料を上塗りして下さい。
- ⑫ 上塗りする場合は、塗膜が充分に乾いてから塗って下さい。
- ⑬ 外壁などにひび割れやすき間があると、本品を陸屋根などに塗装しても、雨水がしみこみ塗膜がふくれたり雨漏りが止まらない場合がありますので、外壁などの点検補修を行って下さい。
- ⑭ 塗り面積・乾燥時間は、素材・塗り方・気象条件などにより異なります。特に塗り面積は、表面状態や吸い込みの量により大きく異なります。
- ⑮ 容器は塗料を使い切ってから捨てて下さい。
- ⑯ やむを得ず塗料を捨てる時は、水性・油性兼用塗料固化剤で固化するか、新聞紙などに塗り広げ、完全に乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。

下部処理の注意

- ① つるつるした面は、サンドペーパーで表面を荒らしてから塗って下さい。
- ② ひび割れ・穴・へこみ・カケなどは、あらかじめセメントやコーキング材などで補修しておきます。
- ③ コンクリートやモルタル面の劣化が著しく、手で触れて、手に粉がついたり、ボロボロと取れるような場合には、きれいに除去してから油性シーラーをご使用下さい。
- ④ 新しいコンクリートやモルタル面に塗る場合は、施工後1ヶ月以上経ってから、油性シーラーをご使用下さい。